Ⅱ.

doi: 10.18999/bulsea.68.154

くずし字による古典教育の試み（８）
―短時間での和本・くずし字活用例―

加　藤　直　志
加　藤　弓　枝[*1]・三　宅　宏　幸[*2]

【抄録】 日本近世文学会の「出前授業」の一環として、同学会所属の研究者に講師を依頼し、和本（古典籍）やくずし字を活用した特別授業を協同で実施した。これまでにも、同種の授業を提案してきたが、授業時間数に余裕がなく、新しい取り組みを行うことが難しいという学校も多いだろう。そこで、今回は、学期末などのわずかに空いた時間を利用した、比較的短時間でも実施可能な授業実践例を提案することとした。

【キーワード】 和本　和本リテラシー　和本バンク　くずし字　日本近世文学会　モジュール教材

１．はじめに

名古屋大学教育学部附属中・高等学校（以下、「本校」とする）では、2015年以来、日本近世文学会による出前授業の一環として、くずし字による古典教育を試みてきた。2022年度も、2023年３月15日（水）に、本校の中学１年生２クラスを対象に実施した。これまでの取り組みから、くずし字や和本をうまく活用すれば、古典への興味・関心を喚起することにつながる効果があるということを明らかにしてきた（注１）。本校でのこれまでの実践例は、50分１回完結の出前授業として行ってきた。それらを先例として考えると、和本の現物に触れる授業を１回、くずし字について学ぶ授業を１回、合計２回できると、和本の質感などの魅力を直に感じつつ、（部分的にであれ、）書かれている内容を読むこともできるため、理想的である。しかしながら、くずし字や和本を活用した古典教育に限らず、近年では、アクティブ・ラーニングやICTの導入といった新しい教育方法が求められる反面、受験への対応を考えると授業時間数に余裕がないとか、教員が生徒指導や部活動指導に追われ、教科指導にさらなる労力を割くことが難しい、というのが多くの学校の現状であろう。とはいえ、いかに時間がないとはいっても、例えば、学期末などに、あるクラスだけが国語の授業時間に余裕があるが、ほかのクラスと授業進度をそろえておくために、そのクラスだけ先に進むことはせずに残りの時間を自習にするといったケースもあるのではないか。各校によって異なる事情はあるだろうが、カリキュラムの隙間のようなわずかな時間に、和本やくずし字を活用した授業を実践し、それが学習者の興味・関心を喚起するきっかけとなるとよいのではないだろうか。そのようなことを狙って、2023年春に刊行した『未来を切り拓く古典教材　和本・くずし字でこんな授業ができる』（注２）所収のくずし字教材は、単元構成や教科書の進度などから比較的自由に扱うことができ（注３）、かつ短時間でも実施可能な内容となるものとした。また、同書をオープンアクセスとし、PDF版をWeb上で全文無料公開することで、学校現場のICT化に対応するとともに、教材をそのままプリントアウトして生徒の人数分を印刷、配布できるような便宜も図った。

本実践は、『未来を切り拓く古典教材』の教材を短時間で使ってみることをねらいとし、和本に触れる授業（前半）とくずし字について学ぶ授業（後半）を、50分１コマで同時に実施した。コロナ禍により、オンラインでの出前授業が続いていたが、久々に外部講師の２人（加藤弓枝・三宅宏幸）が来校し、対面で実施することができた。

２．古典学習に関するアンケート（事前）

今回も、授業の前後に古典学習に関するアンケートを実施した（【表①】）。

*1　名古屋市立大学大学院人間文化研究科准教授
*2　同志社大学文学部准教授（出前授業当時は、愛知県立大学日本文化学部准教授）

【表①】
（対象　2022年度中１・78名）

	ア	イ	ウ	エ
国語の学習は大切だと思いますか？	48人 61.6%	27人 34.7%	3人 3.9%	0人 0.0%
国語の学習は好きですか？	18人 23.1%	38人 48.8%	16人 20.6%	6人 7.7%
古典の学習は大切だと思いますか？	11人 14.2%	25人 32.1%	29人 37.2%	13人 16.7%
古典の学習は好きですか？	18人 23.1%	30人 38.5%	19人 24.4%	11人 14.2%
くずし字が読めると良いと思いますか？	9人 11.6%	37人 47.5%	19人 24.4%	13人 16.7%

（%は、小数点以下第１位未満の数値を切り上げた）
ア：そう思う
イ：どちらかといえばそう思う
ウ：どちらかといえばそう思わない
エ：そう思わない

［国語］については、「大切だと思う」96.3%（アとイの回答を合算した数値を示す、以下同様）と考えている生徒が大半だが、［古典］が「大切だと思う」生徒は46.3%とほぼ半減している。この数値は、本校の中１を対象とした過去３回の調査（注４）と比較しても最低である。この数値と連動するように、後述する記述型アンケートにおいても、「将来何の役に立つのかわからない」という意見も散見した。一方、［古典］が「好き」は61.6%と、「大切だと思う」よりも高い数値が出ている。「古典を学ぶ意義はよくわからないものの、嫌いではない」といった意識の生徒が多いことが浮かび上がってきた。古典に対してさほど悪い印象を持っていない時期に、古典を学ぶ意義について伝えておくことが重要であろう。

2022年度の中１は、小学校高学年でくずし字に触れる単元が含まれるようになった教育課程で学んできている生徒達であるが（注５）、「くずし字を見たことはありますか」という質問に対して、「ある」と答えたのは、66名（84.7%）であり、過年度（2019年度中１が82%、2018年度中１が68.4%、2016年度中１が92.5%（注６））と比べて大きな変化は見られなかった

３．使用した和本について

本実践（前半）では10点の和本を使用した【表②】。＊が付された本は、同志社大学古典教材開発研究センターの和本バンク（注７）所蔵本である。うち、１・４・６・８については、昨年度の出前授業でも使用した和本であり、すでに紹介したので、そちらを参照してほしい（注８）。本稿では、２・３・５・７・９・10について簡潔に紹介しておく。和本バンク所蔵本以外は、いずれも授業者３名が持ち寄った架蔵本である。

【表②】

1	『竹取物語』＊
2	『伊勢物語』＊
3	『徒然草』
4	『姿百人一首小倉錦』＊
5	『源氏物語湖月抄』
6	『平家物語』＊
7	『東海道中膝栗毛』
8	『偐紫田舎源氏』＊
9	『尾張名所図会』
10	『今川状』

＊は、同志社大学古典教材開発研究センター和本バンク所蔵本

２は、『伊勢物語』（上巻）（大本１冊、絵入り）。刊行年が記載された下巻を欠くが、版面から寛文10年（1670）に松会が刊行したものであることがわかる。『伊勢物語』は江戸時代には女子用教育にも用いられたことから、極めて多くの種類の版本が出版された。なお、この本を出版した「松会」氏が刊行した書物のことを「松会版」（あるいは松会本）と呼ぶ。

３は、『徒然草』（大本２冊、絵入り）。元文２年（1737）に菊屋善兵衛（京都の本屋）が刊行した絵入りの徒然草。徒然草は江戸時代初期に「古典」として発見され、一大ブームを巻き起こし、数多の版本が刊行された。外題は「徒然草」ではなく、本書のように「つれ／＼草（つれづれ草）」と記すものが多い。

５は、『源氏物語湖月抄』（大本１冊）。延宝元年（1673）成立の北村季吟による『源氏物語』注釈書。全60巻のうちの１冊「手ならひ」を使用した。『湖月抄』は、江戸時代を通じて最も流布し、多くの読者を得た『源氏物語』ともいわれる。印刷された文字と書き込まれた文字との差異が、生徒にもわかりやすい。

７は、『東海道中膝栗毛』（小本２冊、絵入り）。十返舎一九の作。滑稽本の中でも最も世に知られたものの一つであろう。初版本は、享和２年（1802）から文化11年（1814）にかけて刊行された。発端、初編から八編まで全18冊のうち３冊「四編上」「四編下」「五編下」を使用した。「四編上下」は、弥次郎兵衛と喜多八が、ちょうど現在の愛知県周辺を旅している場面が含まれており、本校生徒にとっては地元が登場する古典ともいえる。

９は、『尾張名所図会』（前編巻六）（大本１冊、絵入り）。尾張国（愛智郡、知多郡、海東郡、海西郡、中島郡、春日井郡、葉栗郡、丹羽郡）の名所や風俗、歴史や名産について収録した地誌。前編は天保15年（1844）刊、後編は明治13年（1880）刊。巻六は知多郡にあたる。知多の名所や貝の名産に関する記述や挿絵が掲載され、また歴史に関しては、平治の乱に破れた源義朝が知多郡で最期を迎えた史実などが記される。

10は、『今川状』（巻子本１冊）。今川了俊が養子となった仲秋に向けて著した23か条から成る家訓書。今回使用したものは巻子装の写本で、「今川了俊愚息仲秋制詞条々」から始まり「永享元年九月十六日」で結ばれる。『今川状』は江戸時代に道徳書として流布し、『女今川状』や『百姓今川准状』など、その形式にならった様々な分野の教訓書が数多く出版された。

なお、本実践の後半では、和本ではなく、くずし字教材のプリントを使用した。これについては、次節で触れる。

４．指導の実際

本節では、授業の内容について具体的に述べる。本稿末尾に掲載した、【資料１】（当日の授業の学習指導案）と【資料２・３】、および「知っておきたい和本の基礎知識」、くずし字教材「昔の謎かけを読んでみよう！①」、「くずし字一覧表」（注９）をあわせて参照してほしい。本実践は、中学校の授業において行ったものであるが、高校でも実施可能な内容であり、指導案には、参考までに、高校の「言語文化」の指導事項との対応関係も掲載した。

各クラスを原則４名からなる10個の班に分け、授業開始前に、版ごとに机を向かい合わせにして、各班に和本を１点ずつ、ワークシート【資料２】を１枚ずつ、各自に「知っておきたい和本の基礎知識」を１枚ずつ、それぞれ配布しておいた。

導入では、加藤直志が、「古典に対して様々なイメージがあるだろうが、教科書に載っているものはごく一部に過ぎず、また、現代人向けに文字などが加工してある」、「今日の授業は、昔の状態のまま古典に直接触れてもらうことが目的である」と述べた。その後、加藤弓枝が、スライド（２）（３）（４）を見せながら、和本を扱う際の注意事項について簡潔に説明した。

展開１では、自分たちの班が担当する和本について、班のメンバーで相談しながら、観察・分析してもらった。加藤弓枝が、見た目、紙、重さ、文字などに注目するとよい、というヒントを出し、「現代の本との違いについて、気がつくことを書き出してください。」と書かれたワークシート【資料２】に書き込んでもらった。生徒達が、和本を手に取りながら、ああでもない、こうでもないと相談し合うところを、授業者３人で机間を回り、助言を与えた。

展開２では、ワークシートに記入した内容をクラス全体に発表してもらった。10個の班すべてに発表してもらうだけの時間はなかったため、挙手した生徒数名を加藤直志が指名し、板書にまとめていった。生徒達からは、「字がくずれている」、「糸で止めてある」、「袋とじになっている」、「和紙でできている」などの指摘がなされた。続いて、内容を読もうとするとくずし字を読まないといけない、ということを加藤直志が指摘した。その後、加藤弓枝が、スライド（６）（７）を使い、各班に配られた和本について、ごく簡潔に紹介した上で、スライド（８）を使い、江戸時代の『偐紫田舎源氏』と現代のマンガ『ONE PIECE』との装丁の共通点について指摘した。ここでも、現代と異なる文字（くずし字）が使われていることを指摘し、展開３へと進んだ。

加藤直志・加藤弓枝が、くずし字教材「昔の謎かけを読んでみよう！①」と「くずし字一覧表」を生徒全員に配布しながら、三宅がスライド（９）を使って、くずし字について簡潔に紹介した。三宅が、配布したくずし字教材プリントには、江戸時代の謎かけが書かれていることを述べた上で、くずし字をグループで解読し、プリントの空欄を埋め、謎解きに挑戦するよう指示をした。また、わかった字については、その字母も横に書いてみるよう指示した。生徒の話し合いの最中には、授業者３人で机間指導を行った。その後、三宅が、生徒を指名し、スライド（11）から（15）を使いながら、答えと謎解きの解説を行った。

終結では、加藤弓枝が、スライド（16）（17）を使いながら、くずし字のことを変体仮名と呼ぶことや、これらが読めると、地震に関する古い記録を読むことができるといった利点がある（注10）と述べた。また、日本には他国と比べてもかなり多くの歴史的典籍が残されているものの、現代の文字に直してある書物はわずか数％に過ぎないこと、近年では文系・理系を問わず古典籍が注目されていること、世界では古典が重要視されていることなどを説明し、くずし字や古典を学ぶ意義について力説した（スライド（18）（19））。授業の最後には、昨年度も使用した、江戸後期の名古屋近辺の絵図（注11）をスライド（20）に映し出し、昔の地図が災害予測に役立つ面もあることにも触れた。

授業後に書いてもらった感想の一部を紹介する。

・実物を見せてくれたのがうれしかった。
・古典の文けんを手にとる貴重な体験ができてよかった。楽しかった。
・江戸時代にもなぞかけがあるとは思わなかった。
・昔のなぞかけがおもしろくて、もっと様々ななぞかけや物語を読んでみたいと思えることができました！
・本当の古典にふれることができたのはとても貴重でありがたく、楽しかった。今日もらった紙を見てくずし字がよめるよう頑張る！
・くずし字を読むのはとても難しかったけれど、読めたときの達成感が大きかった。
・古典の学習の意義が分かりよかった。おもしろさに気付けてよかった。
・１％から５％ぐらいしか訳されていないと知り、意外

だった。小中高と古典文学はあつかわれているのに、重要視されていないのがなぜかぎもんに思った。

従来よりも内容を圧縮した授業ではあったが、やはり和本の現物に直接触れるという経験は生徒達に印象に残るようだ。また、くずし字や古典について学ぶ意義についての理解も深まった様子がうかがえる。

５．古典学習に関するアンケート（事後）

出前授業当日の帰りの時間を使い、事後アンケートも実施した。結果は以下の通り【表③】。また、【表①】と【表③】の比較をしたのが、【表④】である。事前と事後で母数が異なるのは、欠席生徒がいたためである。

出前授業を実施する前と後では、以下の変化が認められた。（アとイの回答を合算した数値を示した）

・「国語の学習は大切だと思う」と答えた回答率は、ほぼ変化なし。（96.3%→96.2%）
・「国語の学習が好き」だと答えた回答率は、微増。（71.9%→78.0%）
・「古典の学習は大切だと思う」と答えた回答率は、大幅に増加。（46.3%→87.1%）
・「古典の学習が好き」だと答えた回答率は、増加。（61.6%→76.7%）

【表③】
（対象　2022年度中１・77名）

	ア	イ	ウ	エ
国語の学習は大切だと思いますか？	49人 63.7%	25人 32.5%	3人 3.9%	0人 0.0%
国語の学習は好きですか？	18人 23.4%	42人 54.6%	14人 18.2%	3人 3.9%
古典の学習は大切だと思いますか？	24人 31.2%	43人 55.9%	9人 11.7%	1人 1.3%
古典の学習は好きですか？	23人 29.9%	36人 46.8%	13人 16.9%	5人 6.5%
くずし字が読めると良いと思いますか？	22人 28.6%	36人 46.8%	12人 15.6%	7人 9.1%

（%は、小数点以下第１位未満の数値を切り上げた）
ア：そう思う
イ：どちらかといえばそう思う
ウ：どちらかといえばそう思わない
エ：そう思わない

【表④】
（対象　2022年度中１・事前78名　事後77名）

	ア		イ	
	事前	事後	事前	事後
国語の学習は大切だと思いますか？	48人 61.6%	49人 63.7%	27人 34.7%	25人 32.5%
国語の学習は好きですか？	18人 23.1%	18人 23.4%	38人 48.8%	42人 54.6%
古典の学習は大切だと思いますか？	11人 14.2%	24人 31.2%	25人 32.1%	43人 55.9%
古典の学習は好きですか？	18人 23.1%	23人 29.9%	30人 38.5%	36人 46.8%
くずし字が読めると良いと思いますか？	9人 11.6%	22人 28.6%	37人 47.5%	36人 46.8%

（%は、小数点以下第１位未満の数値を切り上げた）
ア：そう思う
イ：どちらかというとそう思う

数値の比較からは、本実践により、古典の学習を大切だと考える生徒が大幅に増加したことがうかがえる。和本に触れる授業とくずし字について学ぶ授業を50分間に詰め込むというやり方を試みたが、これまでと大差ない効果があったと考えてよさそうだ。

次に、記述回答についても検証する。【表⑤】を参照してほしい。事前と事後の記述内容の変化を分析し、もともとプラスイメージを抱いていた生徒が、さらに好意的になったという例をⅠ（77名中17名）、マイナスイメージを持っていた生徒が、授業後にプラスイメージに転じたという例をⅡ（77名中33名）、マイナスイメージのままだったという例をⅢ（77名中６名）と、便宜上、分類した。「イメージ」という漠然とした質問だったこともあり、回答内容が多岐に渡り、残る21名はⅠからⅢの基準では分類できないような回答内容であった。本実践を通して、多くの生徒が古典に対するイメージがよくなったと考えていることがうかがえる。マイナス要因としては、「難しい」「使わない（役に立たない）」といったことを理由としている点、過年度と大きな違いはなかった。

【表⑤】

	事前	事後
	これまで学んできた「古典」に、どのようなイメージを持っていますか？何でもいいので感じていることを書いてください。	特別授業を受けて、「古典」のイメージは変わりましたか？変わったとすれば、どのように変わったのか、書いてください。（特に変化がなければ書く必要はありません）
Ⅰ	季節の言葉が多くふくまれていて季節感を感じられるようなイメージがある。	古典には、文字がちがうというだけで、内容や、考えることは似ていたりするのでもっとくわしく読みたいと思った。
	それぞれの時代背景を知れるので私はおもしろいと感じています。しかし、文脈などが今とは違う部分があるので難しいとも感じます。	授業を受けて、古典作品を読むことには大きな意味があることを感じ、大切さをより実感することができた。
Ⅱ	平安時代の物語が多そう。今は使われていない言葉がたくさんでてきて難しそう。	知らないだけで、古典文学作品はたくさん残っていると知ることができた。古典文学作品がどのような形で残っているのか分かった。
	難しい。学んでも将来あまり役に立たない。	古典は昔のデータを得て今に役立てるためにとても重要。
	どうしてわざわざ昔のことを学ぶ必要があるのか分からない。使うことのない昔の話を勉強するイメージ。	文系だけでなく、理系のことにも関わっていると分かり、昔のことを知るのも大切だと分かった。このように、少しイメージが良くなった。
Ⅲ	あまり使わない。めんどくさく、ねむくなる。	変わらなかった。
	現代語訳されていればいいが、昔の書かれ方のまま読むのは楽しくない…昔の言葉の使い方で言葉遊びしていたということは面白いと思うが、昔の言葉が読めてどうするんだと思う。	全く勉強する必要がない→一部の人なら、他の人は音楽とか美術みたいにあまり意味はないかな…

６．おわりに

これまでの出前授業では、和本を活用した授業、くずし字を解読する授業を、それぞれ別のものとして実施してきた。両方の授業ができると理想的なのだが、諸事情で難しい学校も多いのではないか。そこで、本実践では、和本に触れる時間を短くし、また、モジュール教材を利用することにより、50分間で、和本に触れることとくずし字入門の両方を行うことを試みた。過去の出前授業と比べ、和本についての解説内容を簡略化したり、くずし字を読む分量が少なくなったりした面はあるが、アンケートの結果を参考にすると、古典への興味・関心を喚起し、古典を学ぶ意義についての理解を深める機会としては機能したといえそうだ。本実践の前半部分のみ、あるいは後半部分のみを実施するという授業も可能だろうが、どちらにせよ、終結部で加藤弓枝が述べたような、くずし字や古典を学ぶ意義について触れる場面はわずかでもよいので作りたいところだ。

本実践は、小・中・高、学年を問わず実施可能な内容ではあるものの、「古典への苦手意識はさほど強くないが、学ぶ意義への理解は希薄」という傾向が見られる中１前後の学年で実施し、古典を学ぶ意義を感じてもらえるとより効果的であろう。出前授業のような機会を作ることが難しい場合には、代替案として、「古典の効用」について書かれたコラムのようなページ（注12）を、小６から中１くらいの教科書に掲載するのも一案かもしれない。

（注）

1　加藤直志・加藤弓枝・三宅宏幸「くずし字による古典教育の試み（１）～（７）」（『名古屋大学教育学部附属中・高等学校紀要』第61～67集、2016年12月～2022年12月）参照。

2　同志社大学古典教材開発研究センター・山田和人・加藤直志・加藤弓枝・三宅宏幸編『未来を切り拓く古典教材　和本・くずし字でこんな授業ができる』（文学通信、2023年３月）。以下のサイトで、PDF版を全文公開している（オープンアクセス）。
文学通信repository：http://repository.bungaku-report.com/htdocs/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=161&item_no=1&page_id=3&block_id=8
同志社大学学術リポジトリ：https://doshisha.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=29485&item_no=1&page_id=13&block_id=100

3　日本語教育の分野では、このような教材を「モジュール教材」と呼ぶ（岡崎敏雄『日本語教育の教材　分析・使用・作成』（1989年、アルク）、34頁）。山田和人「おわりに―未来を切り拓く古典教材へ」（（注２）前掲書、191頁）も参照。

4　過去の中１の調査結果については、加藤直志・加藤弓枝・三宅宏幸「くずし字による古典教育の試み（５）―江戸時代の「桃太郎」を読む・補遺―」（『名古屋大学教育学部附属中・高等学校紀要』第65集、2021年１月）にまとめている。

5　加藤直志「国語科教育にくずし字や和本はどう関わるか―学習指導要領との関連から」（（注２）前掲書、92頁）参照。

6　（注４）に同じ。

7　「和本バンク」の詳細については、加藤弓枝「古典籍無償貸出プロジェクト「和本バンク」のすすめ」（（注２）前掲書、56～59頁）を参照。

8　加藤直志・加藤弓枝・三宅宏幸「くずし字による古典教育の試み（７）―和本バンクを活用した出前授業―」（『名古屋大学教育学部附属中・高等学校紀要』第67集、2022年12月）参照。

9　「知っておきたい　和本の基礎知識」は、（注２）前掲書の72

～73頁（加藤弓枝執筆）を、「くずし字一覧表」は、（注２）前掲書の194～195頁（字例の墨書を松本文子執筆）を、くずし字教材「昔の謎かけを読んでみよう！①」は、（注２）前掲書の180～181頁（三宅宏幸作成）を、それぞれ印刷して生徒に配布した。

10　災害古記録を古典教材として扱うことについては、今村久二「積極的に言語文化を享受して生かすために―新科目『言語文化』実施一年―」（『月刊国語教育研究』第611号、2023年３月）、同「自分の中の「伝統」観を問い直す」（『月刊国語教育研究』第537号、2017年１月）に言及がある。

11　『尾張絵図』（江戸後期、愛知県図書館蔵）https://websv.aichi-pref-library.jp/ezu/ezudata/jpeg/698.html（2023年８月24日閲覧）。

12　古典を学ぶ意義については様々な意見があろうが、仲島ひとみは「リテラシー」「伝統継承」「コンテンツ」の３点から説明し、このうち「リテラシー」を特に重視している（仲島「共に社会を作る仲間として後進を育てようとするのなら」（仲島ほか『高校に古典は本当に必要なのか　高校生が高校生のために考えたシンポジウムのまとめ』2021年、文学通信）。仲島「本当に必要なのかと言わせない古典」（（注２）前掲書、12～21頁）も参照。「古典の効用」について考える上で参考になろう。

【付記】

※１　本稿の執筆者の掲載順については、本校教員である加藤直志を最初に掲載し、加藤弓枝と三宅宏幸については五十音順で掲載した。あくまでも便宜的なものであり、研究内容の分担率等とは無関係である。

※２　【資料３】スライドの画像データの掲載に際しては、愛知県図書館から画像使用の許可を賜った。記して御礼申し上げる。

※３　本研究は、JSPS科研費JP23H05043ならびに20K00326の助成を受けている。

※４　「出前授業」の問い合わせは、日本近世文学会広報企画委員会の電子メールへ。
アドレスは、koho@kinseibungakukai.com

※５　「和本バンク」の問い合わせは、以下のウェブページの問い合わせフォームへ。
https://kotekiri20.wixsite.com/cdemcjl/wahonbank

【資料１】

中学校　国語科　学習指導案

指導者　加藤直志・加藤弓枝・三宅宏幸

１．日　時　　2023年３月15日（水）　第３限（Ｂ組）・第４限（Ａ組）
２．対　象　　名古屋大学教育学部附属中学校　第１学年Ａ・Ｂ組
３．教　材　　和本10種、くずし字教材「昔の謎かけを読んでみよう！①」（『謎解説秘伝（なぞときわけひでん）』）
４．単元の目標（全１時間）

［中学校学習指導要領（平成29年告示）〔第１学年〕］
〔知識及び技能〕
・古典には様々な種類の作品があることを知ること。　（我が国の言語文化に関する事項　イ）
〔思考力，判断力，表現力等〕
・文章を読んで理解したことに基づいて，自分の考えを確かなものにすること。
（Ｃ　読むこと　オ）

［高等学校学習指導要領（平成30年告示）「言語文化」］
〔知識及び技能〕
・言葉には，文化の継承，発展，創造を支える働きがあることを理解すること。
（言葉の特徴や使い方に関する事項　ア）
・古典の世界に親しむために，作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解すること。
（我が国の言語文化に関する事項　イ）
・時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め，古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解すること。
（我が国の言語文化に関する事項　エ）
〔思考力，判断力，表現力等〕
・作品の内容や解釈を踏まえ，自分のものの見方，感じ方，考え方を深め，我が国の言語文化について自分の考えをもつこと。　（Ｂ　読むこと　（１）のオ）

５．本時の目標
（１）和本に直接触れたり、くずし字を解読しながら謎解きをしたりすることを通して、古典の世界に親しむこと。
（２）和本に直接触れたり、くずし字を解読しながら謎解きをしたりすることを通して、我が国の言語文化や書物文化について、自分の意見を持つこと。

６．本時の評価規準（◆）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
（１）和本に直接触れたり、くずし字を解読しながら謎解きをしたりすることを通して、古典の世界に親しむことができている。	（２）和本に直接触れたり、くずし字を解読しながら謎解きをしたりすることを通して、我が国の言語文化や書物文化について、自分の意見を持つことができている。	（３）和本に直接触れたり、くずし字を解読しながら謎解きをしたりすることを通して、古典の世界に親しみ、我が国の言語文化や書物文化について、自分の考えや意見を持とうとしている。

７．本時の展開

	学習内容	学習活動	指導上の留意点（・）と評価の観点（◆）
導入 ５分	・本時の内容と目標の確認。 ・和本の扱い方について知る。	・古典のイメージについて確認する。 ・和本の扱い方について聞く。	・班分けした座席の配置にし、各班に一点ずつ和本と「知っておきたい　和本の基礎知識」をあらかじめ配布しておく。 ・和本を扱う際の注意点を確認する。 ◆…（３）

展開１ 10分	・和本を観察し、レポートを作成する。	・「特別授業ワークシート」【資料２】に考えをまとめる。	・班のなかで相談してもよいと指示する。 ・適宜、机間指導を行う。 ◆…（１）（３）
展開２ 10分	・和本の特徴について知る。 ・それぞれの和本の内容について知る。	・分析したことを発表する。 ・授業者の解説を聞く。	・挙手した生徒を指名し、発表内容を板書する。 ・それぞれの和本の内容（主に題名）について説明する。 ◆…（１）（２）（３）
展開３ 15分	・くずし字を解読して、昔の謎かけを読む。	・くずし字教材と同時に配布したくずし字一覧表を参照しながら、グループで「問題一」「問題二」について考える。	・くずし字教材「昔の謎かけを読んでみよう！①」と「くずし字一覧表」を配布する。 ・適宜、机間指導を行う。 ・生徒を指名し、くずし字の読みを答えさせる。 ・くずし字の解説、謎かけの解説をしながら、答え（①ゆうれい・②はいた・③からくり・④かわる）をスライドで示す。 ◆…（１）（２）（３）
終結 10分	・くずし字や古典を学ぶ意義について知る。	・くずし字や古典を学ぶ意義について理解を深める。	・研究者の視点から、くずし字や古典を学ぶ意義について解説する。 ◆…（１）（２）（３）

【資料２】「特別授業ワークシート」（A5サイズ）

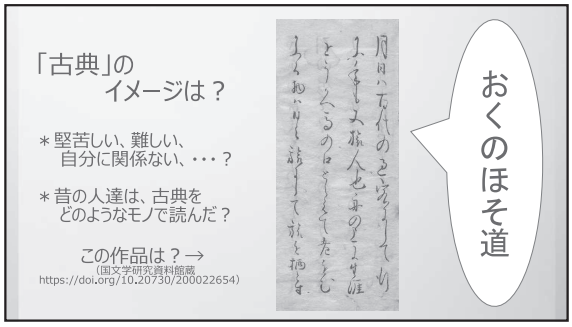
特別授業ワークシート

中学１年（　　）組（　　）班

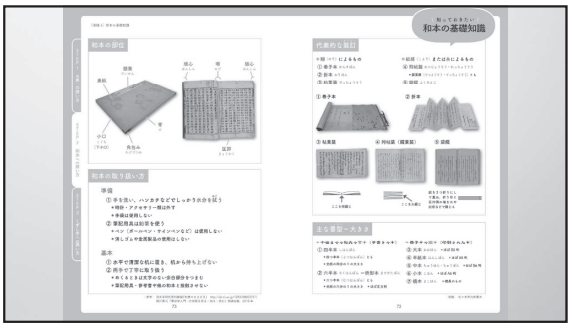
みなさんの前には、昔の本が置かれています。 触ったり、ページをめくったりしても構いません。 この本を分析し、現代の本との違いについて、気がつくことを書き出してください。あとで意見を発表してもらいます。

【資料３】スライド（パワーポイント）

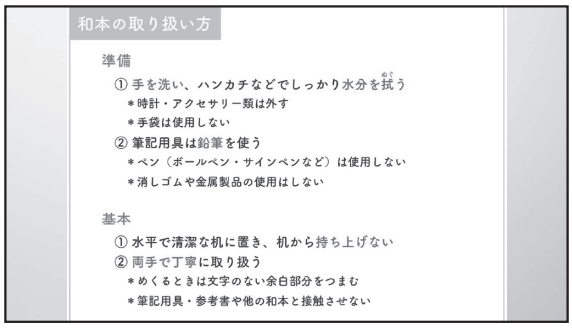
（1）



（2）



（3）



（4）

【グループワーク】

みなさんの前には、昔の本が置かれています。触ったり、ページをめくったりしても構いません。

この本を分析し、現代の本との違いについて、気がつくことを書き出してください。

（5）

教科書記載の古典文学

1　竹取物語
2　伊勢物語
3　徒然草
4　百人一首
5　源氏物語
6　平家物語

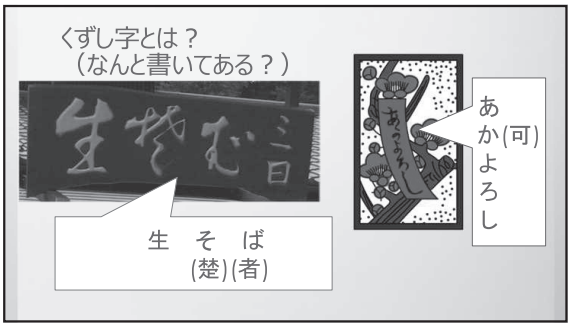
（6）

さまざまな古典

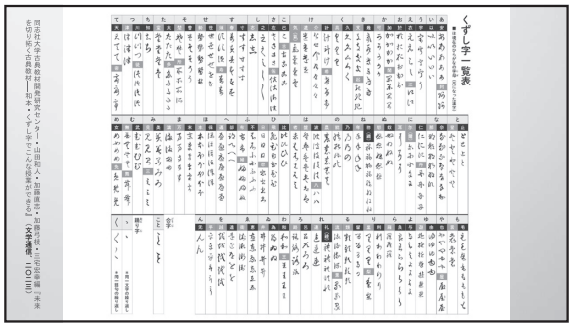
7　東海道中膝栗毛
8　偐紫田舎源氏
9　尾張名所図会
10　今川状

（7）

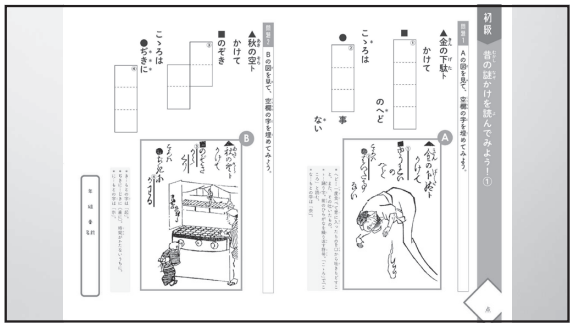
（8）



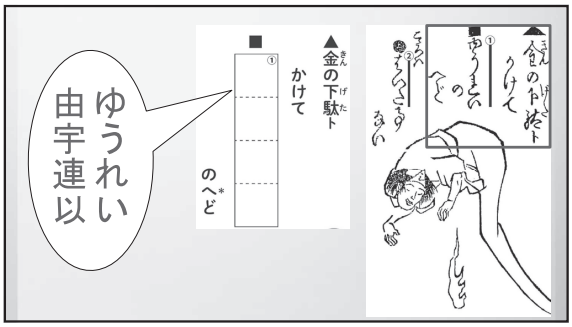
（9）



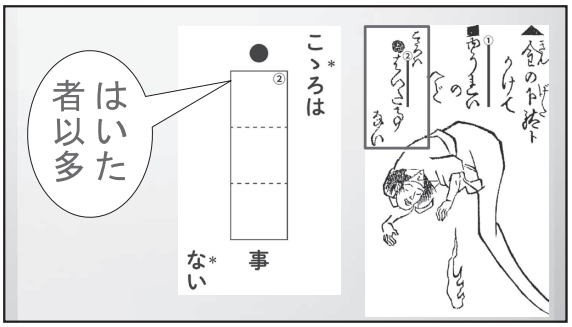
（10）



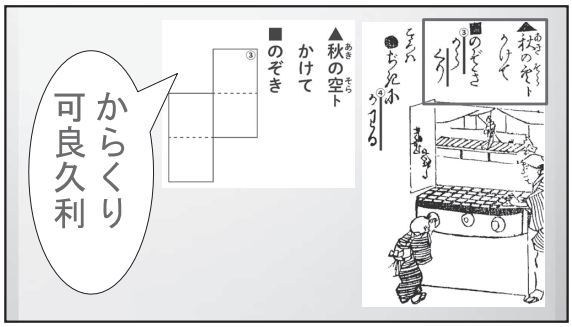
（11）



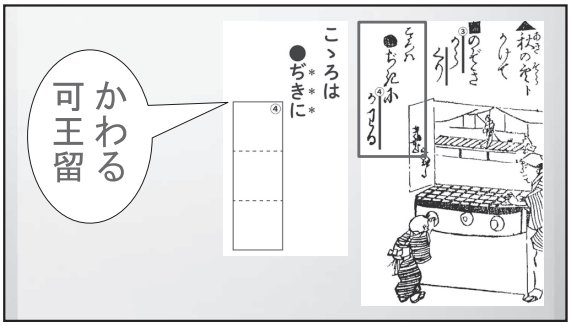
（12）



（13）

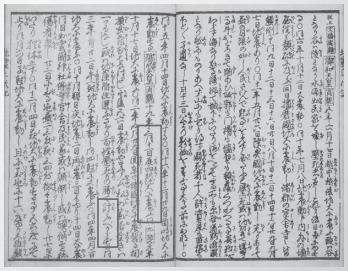


（14）



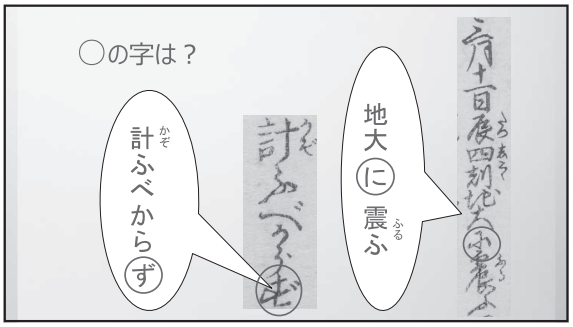
（15）

くずし字を
学ぶ意義



『地震年代記』
安政2年（1855）刊
（国文学研究資料館蔵）
DOI：10.20730/200017703

（16）



（17）

くずし字・古典を学ぶ意義①

(1)活字化されている書物は数%

(2)教科書教材の古典は一部でしかない

(3)知らない世界を知ることができる

（18）

くずし字・古典を学ぶ意義②

(4)過去の人たちが我々に伝えようとした知識を現代に活かし、さらにそれを未来へと伝えることができる

(5)文・理問わず、くずし字・古典籍は注目されている

(6)世界では古典が重視されている

（19）

古典籍の
有効性

過去の人たちの
知識が我々や
未来の人々の
役に立つ！

→ハザードマップ

『尾張絵図』
江戸後期
（愛知県図書館）
https://websv.aichi-pref-library.jp/ezu/public/index.html

（20）